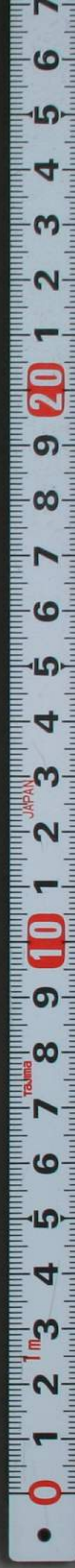


新板
會入

風流誌軍統

二之巻

へ達13
2.041



高田

書明石中町
林紙屋周助



風流詠軍談

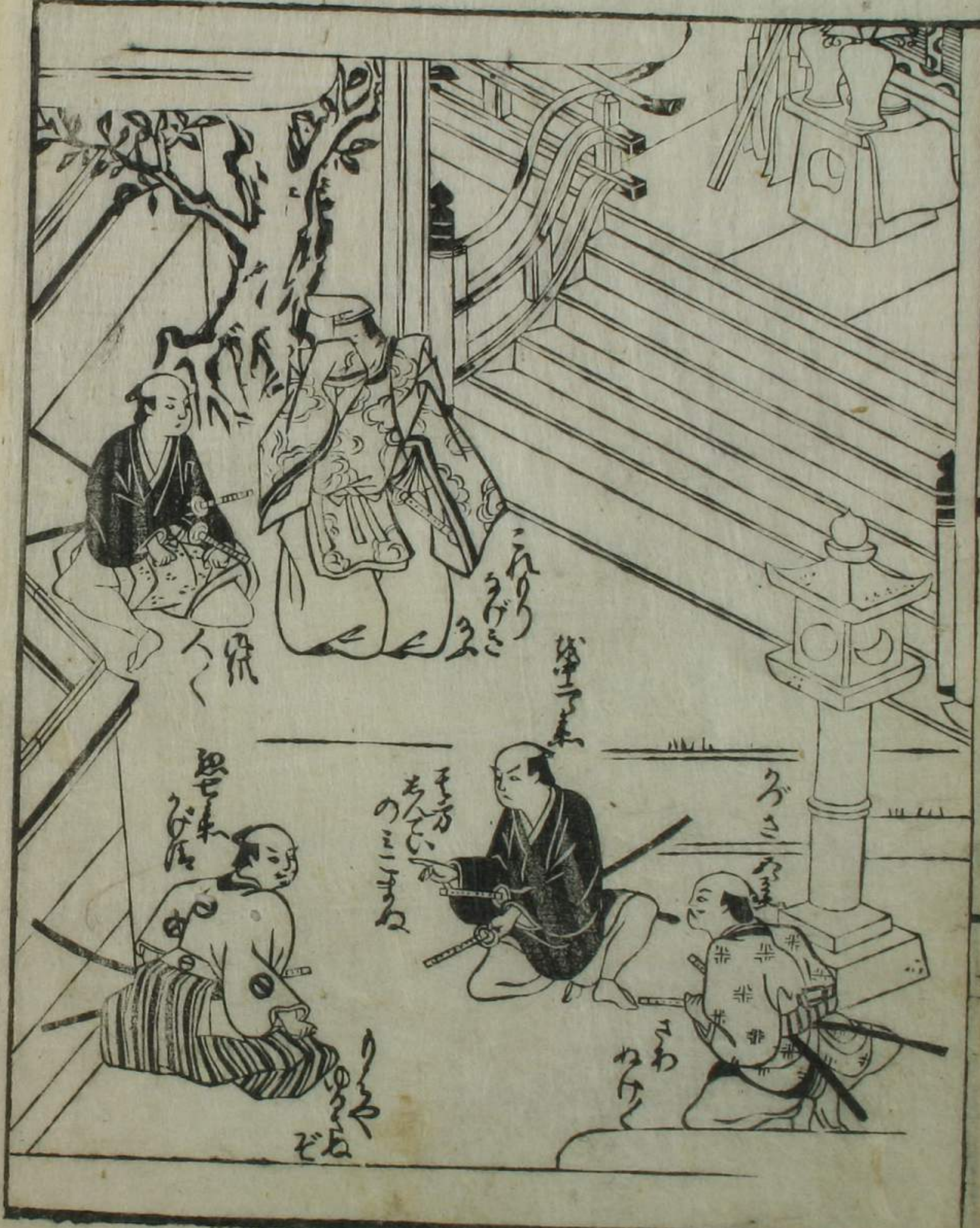
二二二

目錄

第一 延延續り 雅病行り

第二 程女は御ふなきが骨を折

百三十三



此のわがものものよとて後を承りて後のかたは城中のいれあて
くし相付りてアステアト愛出たよとて細首をいつつみてど
ろむのいふ解へ何ふありいれしりや城中をすくせぬを
来何事もよにいついお役は場ふかむして務めあぐんよ
うくと。りんばらそれハ城中に跡の傳へすよとてもまわ
つふかよふれぬ本死の付あふ来と。切南陸の区合へ
とらひすそむむとてびて迎て好。兵を海軍船を合から
くせらちよひい。あ役やめ海船ねけよとのいしよらん。ま
あこれ滅亡乃奉らん。イサ海軍なるいつくさ首にぬくもま
あびはまらにけりてげとらん。うんをわれがうあつりて
ハ後よの強向サアハされけあぞ。いご一討お。マアキさあみ
けれハ目玉の取二人の二二つあるよとてらん。がふを死す

いさごう。若輩内あははまきをんう。まぐらがめはのちよはよ
自後の警物のなまそら。矢の門出よう。これらりあふ直結して
牛あふをふもよう。はよあめあふ人志ねむらう。いさ
のいとも。いさみふらう。いご一討お。マアキさあみ
乃出あてたあれ。あつてのあひまびんく。あつて

風流流軍旗巻き二

